

シリアの化学兵器：例の犯行者によるもう一つのニセ旗攻撃

(上)

NATO のグラディオ作戦が北レヴァントで腕試し

【訳者注】これが書かれたのは、シリアでの化学兵器テロの直後のようで、トランプ大統領の性急な、シリアの軍事基地へのミサイル報復には触れていない。化学兵器テロについては、「またしても false flag か」という反応が先立ってあまり驚かず、驚くとすれば、「彼ら」の常套手段への忠実さに驚くだけだが、トランプ大統領には驚かざるをえない。彼が選挙前のシリアについての考えを完全に逆転させたことを、どう解釈すればよいのだろうか？ 彼は、アメリカの情報局が自分に、誠実な真実を教えてくれるとは期待していないはずだ、と論者は言っている。トランプが自国の false flag の歴史を知らないはずはないのに、どうして騙されたのだろうか？ 論者は、トランプが「強要された」(coerced) か「甘言に乗せられた」(cajoled) のだろうと言っている。いわば単身、敵地へ乗り込んだようなトランプが、どんな精神状態に追い込まれるか、外から批判できることではないように思える。

SOTN (State of the Nation)

April 6, 2017



深層国家の要員たちはいたる所で活動している。アメリカだけではない。現在進行中の黒い

作戦や心理作戦は、深層国家の多数の情報部要員や、世界中の諜報部によって行われていて、シオニスト-アングロ・アメリカン枢軸の内部のそれと、それ以外のあらゆる国家の機関に相互浸透している。この世界の影の政府は、この地球コントロール・マトリックスの最も高い頂上から指令している。しかしこの影の政府は、世界制御の政治的決定が、“第4帝国”の隠れたリーダーたちによって下される場所にすぎない。

完全に明らかな理由によって、4月4日に、シリアの Shaykhum で起こった化学兵器の爆発は、西側諸国が、見えてきた平和のシナリオを急いで方向転換するために仕組んだ、謀略だったことに疑いの余地はない。彼らにはまた、ロシアとの戦争の口実を作ろうとする意図もある——次の暴露記事が説明しているように。

「すべてのまやかしの反ロシア・ヒステリーの背後にあるのは、本当は何か？」

<http://stateofthenation2012.com/?p=68902>

バシヤール・アル・アサド大統領にとって、耐久力ある平和の建設への正しい方向が見えていた。そういうとき、平和プロセスを妨害する最も手っ取り早い方法は、例によって、アサドを、自国民への化学兵器攻撃という、恐ろしい罪状で責め立てることだった。これこそまさしく、月曜日に、もう一つのニセ旗を通じて彼らがやったことだった。

この化学兵器攻撃は、シオニスト-アングロ・アメリカ枢軸 (ZAAA) によって、いくつかの目標達成のために行われたものである⁽¹⁾。ZAAAの指導層は、彼らの見込みのない“拡大イスラエル” (Greater Israel) 計画を、絶対に諦めようとしていない。シリアは、その中東のパズルの真ん中のピースであり続けている。それは、もし北レヴァント地方全体に“拡大イスラエル”ができるとしたら、征服しなければならないものだ。しかしプーチンのロシアは、そのような邪な計画の実行を許すつもりはない。「プーチンのロシアは“拡大イスラエル”計略を吹き飛ばす」 <http://stateofthenation2012.com/?p=23524>)

<http://themillenniumreport.com/2015/12/greater-israel-the-zionist-plan-for-the-middle-east/>

シリアとロシアには動機がない

いかなる戦争の場面であろうと、シリアもロシアも、化学兵器を用いるはずがないことが、これで十分に明らかになったであろう。歴史的事実として、ロシアが取引の中に入って、アサド政府が化学兵器を諦めるように、それを国外へ運び出して、地中海に特別に装備したアメリカの艦船上で破壊するように、取り持ったことはある。[訳者注：もっと前にシリアで化学兵器が使われたときも、シリア政府に関係はなかった。]したがってシリアは、あの爆

発に用いられたような兵器は持っていない。 <https://www.wsj.com/articles/removal-of-chemical-weapons-from-syria-is-completed-1403529356>

それだけでなく、ロシアが平和会談を危険にさらすことはありえない。プーチンは一刻も早く、中東ですべての軍事行動を終わらせようとしている。サンクトペテルブルグでの最近のテロ攻撃を考えれば、彼は、西側が、彼の祖国全体と、特に広範囲なロシア国境地域の防衛に、注意を向けさせようとしていることを知っている。現在 NATO 軍が、以前のワルシャワ条約国のいくつかに常駐していることも、北大西洋テロリスト機構 (NATO) が常に挑発していることの更なる証拠である。それに対して、NATO と海外 ZAAA を実質的に指令している NWO グローバリスト陰謀団は、このニセ旗攻撃から得るものは大きい。

「この攻撃は、シリアのイスラム主義軍団への、ロシアの空爆に対する報復であったとする憶測がある」⁽²⁾

事情を知らない人々のために言うと、シリア (やイラク) の平和交渉を妨害するもので、実質的に NATO の署名がついていないものはない。シリアのアサドも、ロシアのプーチンも、どこでも大いに火の付きやすいような地域で、残虐行為を行う理由は全くない。明らかな戦争犯罪を犯すようなことをすれば、それは、**現行のジェノサイドや強制移民の背後にいる、“ビッグ・オイル”の利益に奉仕するだけである。**世界中がそれを知っている。だからこそ多くの人々は、英や米の主流メディアの化学攻撃の見出しを、完全に不信の目で見ている。

事の真相は次のような事実にある。

まず、主流メディアは常に変わず、アサドがこの戦争の初期に自国民を毒ガスで殺したと、全く同じ調子で合唱している。そんなことは起こらなかった——4月4日に Shaykhun でそんなことが起こらなかったと同じように。しかし非常に疑問のある行動は、ロンドンの新聞が、これら明らかに虚偽の非難を、日常的に、真実のかけらもなしに載せていることである。もっと重要なことは、もし実行していれば信用できたであろう予備調査を、行うだけの時間さえ与えなかったことで、主流メディアは、彼らの根拠のない物語を、攻撃から数分もたたぬうちに、侵略的に押し進めている。この繰り返しの力学によって、世界中の主流メディアが、アサドは暴君で殺し屋だという完全に作り話の、グローバルな共鳴室を作ってしまった。これは明らかに真実ではない。次を参照されよ：——

「シリアのバシヤール・アル・アサド：秘密の裏話が、なぜ西側が彼の政府を倒せないかを明らかにする」 <http://themillenniumreport.com/2015/09/syrias-bashar-al-assad-secret-back-story-reveals-why-the-west-cannot-topple-his-government/>

この、すべての戦争犯罪とジェノサイドを、反射的にシリアと/またはロシアに転嫁する、NATO 主導のメディア処理（別名、へど用心戦争プロパガンダ）が、あまりにも明らかになってきたので、今それは、世界中の事実を調べる国々の間で、自然に嘲笑の的になっている。世界の国家共同体の多くのリーダーは、合法的に選ばれたシリア政府についての、メディアのプロパガンダに植え付けられた作り話を、反射的に退けている。今、米英には、アサドの政府軍について証拠もなく言われることに、反論しようとする権威者さえ現れている。「シリアの毒ガスについてロン・ポール：全く意味をなさない、アサドがやった可能性はゼロ」
<http://themillenniumreport.com/2017/04/ron-paul-on-syria-gas-attack-it-doesnt-make-sense-zero-chance-assad-did-this/>

ホワイト・ヘルメット団

いわゆる「ホワイト・ヘルメット団」が、シリアの戦争犯罪シーンに登場すれば、それは常に、ヤラセ救助仕事である。このフェイク集団は、北レヴァントの真の侵略者たちの創ったもの（で道具）にすぎないことが証明されている。ホワイト・ヘルメット団は、モサド-CIAの合同情報作戦以外の何ものではないことを示すいくつかの話が、ネット上に発表されている。彼らがやっていること、またシリアの最近の虐殺や爆撃のさいに、彼らがいかに敏速に姿を現すかを考えれば、彼らが ISIS やアルヌスラと同じように、CIA を通じてサウジから支払われているという以外に、解釈しようがない。

<http://themillenniumreport.com/2017/03/assad-oscar-feted-white-helmets-are-part-of-al-qaeda/>

「CIA がホワイト・ヘルメット団を作ったのは、シリアのあらゆる戦場で、戦争犯罪シーンをコントロールするためか？」 <http://themillenniumreport.com/2017/03/did-the-cia-set-up-the-white-helmets-to-control-the-war-crime-scenes-throughout-the-syrian-theater-of-war/>

CIA, MI6, MOSSAD, DGSE, それに GID といったところが、ホワイト・ヘルメット団を設立して支援している情報機関だと思われる。現在、公共の場所に、その現行の黒い活動を証明する、あまりにも多くの確かな証拠があるので、彼らが今なお、人の目に触れる場所に連れ出されるのは不思議である。（シリアを悪者にする）きちんとねつ造した戦争犯罪の証拠に、つかの間の合法性を与えようとする彼らのやり方でさえ、何か見慣れた光景になり、したがって世界的な軽蔑の対象になっている。

<http://themillenniumreport.com/2016/12/are-all-the-videos-made-by-the-syrian-white-helmets-fake/>

シリア人権監視団

次に、同じくらい滑稽な、Rami Abdurrahman（オサマ・スレイマン）の創設した「シリア人権監視団」がある。彼はまた、シリアの戦場で観察されたとされる多くの物の、唯一の“解釈者”である。しかしスレイマンは、英国コヴェントリーの快適な自分のオフィスにいて仕事をしている。シリアの彼の観察者ネットワークが、どうして、大きな爆撃や戦争犯罪について、露米の軍隊を合わせたよりも、またスパイが地方にいるさまざまな情報機関よりも、良質のリアルタイムの情報を奇跡的に送れるのかは、わからない謎である。

「プロパガンダねつ造サイクル：“シリア人権監視団”は米英政府から資金を得ている」

<http://themillenniumreport.com/2016/09/propaganda-spin-cycle-syrian-observatory-for-human-rights-is-funded-by-us-and-uk-governments/>

明らかに虚偽のスレイマン情報について、ひとつ確実に言えることがある——シリア政府軍とロシア軍が、ほとんど常に道はずれているのに対し、シリア反乱軍と ISIS テロリストは、本物であれ作り物であれ、どんな残虐行為をも犯していないということである。ここから、スレイマンは、シリア内部に隠れた、海外 MI6 情報活動と契約していると思われる。その関係で彼はまた、CIA やモサド、さらに米軍とも緊密に連携しているに違いない。結局のところ、サウジアラビアの GID とも一緒になって、ねつ造された“内戦”全体を保証しているのはこれらの機関である。

Steve Bannon の NSC からの排除と時期を合わせたニセ旗

シリアのニセ旗攻撃と全く同時に起こった、もう一つの注目すべき展開は、国家安全保障会議 (NSC) からのスティーブ・バノン大統領補佐官の**予期せぬ排除**だった。アメリカの軍事介入路線を変えさせるポイントとなる人物は、彼と前国家安全保障アドバイザー、マイケル・フリン (Michael Flynn) の 2 人だった。この 2 人が共に、強力な NSC から除かれた今となっては、この委員会は、CFR タイプの人間や他の MIC 代表だけに占められている。これはシリア紛争に対するトランプの反応にとって、よい兆しではない——特に彼が、この“受け入れられない”化学攻撃の後では、自分のアサドとシリアの見方は変わってしまった、と公的に明言した後では。 <http://stateofthenation2012.com/?p=70582>

バノンが排除されたタイミングを考えると、トランプが、シリアについての正確な情報を得られるようしてくれる人物は、ホワイトハウスには誰もいないかもしれない。彼はアメリカの情報局共同体が、シリア、イラク、アフガニスタン、その他、世界中の戦争舞台について、

高度に誠実な情報を自分に与えると期待はできないことを知っている。

CIA の最大の役目は、さまざまな戦争計画が毎日、世界を通じて実行されるように、統制することである。フリンも、ホワイトハウスの主任戦略家バノンも共に、最上の保険証書だったのであって、悪質な外交政策が永遠に展開されて、外交問題評議会によって売られることを防ぐ、最適任の人たちだった。 ——以下、(下)